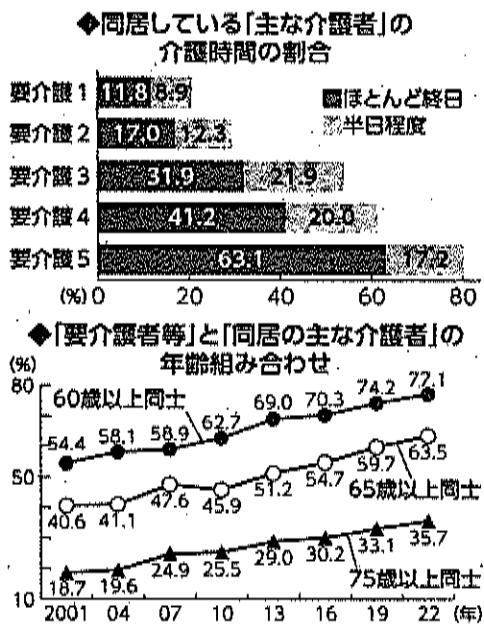


# 「老老介護」6割超す 最高過去

厚生労働省が4日発表した「国民生活基礎調査」では、「老老介護」の割合が過去最高となるなど、介護を担う家族の負担が極限まで重くなっていることが浮き彫りになりました。介護の社会化をうたって始まった介護保険制度が十分に機能せず、家族を重い負担を課す状況が強まっています。

## 女性に負担が集中



### 国民生活基礎調査

長時間の介護が介護者の健康や精神に深刻な負荷を与えることがあります。要介護者とそれを支える家族が同居している世帯のうち、要介護者・家族とも65歳以上の世帯の割合が初めて6割を突破。75歳以上同士も35.7%と、20年でほぼ倍になりました。

介護を受ける側から見た「主な介護者」は同居している家族等が45.9%、別居の家族等が11.8%で、事業者は15.7%などがあります。同居、別居とも主な介護者の割合を女性が占め、介護が女性の負担となっていることを改めてお付けています。

### 利用負担も重く

「主な介護者」は同居している家族等が45.9%、別居の家族等が11.8%で、事業者は15.7%などあります。同居、別居とも主な介護者の割合を女性が占め、介護が女性の負担となっていることを改めてお付けています。

す。要介護3以上では「ほとり、要介護1、2の2万円台の、「受けたいサービスがない」「サービスを受けた手続がわからない」「5万円以上になります。5万円になります。(30%)」「利用料負担が払えない」「(2%)」との回答もあります。

### 健康や心に影響

介護費用の負担で近年収入を充てたとの回答が多いもの

りあります。

介護保険の利用者負担は原則1割で、自公政権の連続改悪で「一定所得以上には2~3割負担が導入されましたが、利用料が払える範囲です。

介護保険制度を全く利用しない理由では、家族や本人自身で「なんとかやっていける」との回答が多いものとなっていません。

## 家族頼みの制度の欠陥

全日本医師連合の林義則事務局次長の話

「老老介護」が調査のたびに深刻化するという制度になつていいのかは、家族がいることを前提に設計された介護保険制度の欠陥が表れています。介護保険を保障するなど制度の抜本改革が必要です。

1カ月の介護費用の平均は支度のときは半額、基本は家